



12月7日(日)

福岡県  
八女福島保存地区  
筑後黒木保存地区  
(伝統的建造物群保存地区)

主催：塩田津町並み保存会  
後援：嬉野市教育委員会

- 開催日：平成20年12月7日(日)
- 研修地：福岡県八女市・黒木町(伝統的建造物群保存地区)
- 予定時間：8時出発～18時頃到着予定
- 参加費：1人：2,500円(昼食代を含みます)
- 定員：80名(定員になりしだい締め切ります)
- 申込み先：筒井省吾(0954-66-2103)  
水山清吾(0954-66-2533)
- 申し込み締め切り：11月26日(水)

#### 《八女福島 伝統的建造物群保存地区》

八女福島地区は、16世紀末より城下町として栄え、1621年の田中家廃絶の後、久留米藩の管轄するところとなり、藩内で最大級の在郷商家町として発展しました。

また、八女地方は江戸時代より仏壇・提灯・和紙などの伝統産業も盛んで、旧往還道に沿う商家づくりの町並みは、江戸中期には完成したものと思われます。

町並みは、茅葺き屋根が主流でしたが、度重なる大火を教訓に、壁は軒裏まで白漆喰で塗り固め、屋根は入母屋造棧瓦葺き妻入で、防火性に優れた町家が連坦し残っています。

町づくりに興味がある方の  
ご参加、お待ちしております！

#### 《筑後黒木 伝統的建造物群保存地区》

黒木地区は、鎌倉時代より続いた黒木氏の猫尾城が落城した後、江戸時代に豊後別路の整備に伴い新たに町立てされ、久留米藩の在方町(農村地域における商工業の中心地)として栄えました。

町家は明治11年の大火後の建築で、妻入り二階建・入母屋造棧瓦葺きを基本に、両袖に下屋を降ろす形式(居蔵造)を特徴とし、中には、腰部に緑泥片岩の薄板を張ったスケールの大きい居蔵家もあります。

地区を流れる矢部川の清流や、並木が黒木地区の情緒ある町並みと共生しています。

この企画は、森博記念地域活性化事業の助成を受けています